125

Hokusai
No. 3.

754.7
.H8
c.2

序

目をよろこばしむ畧畫はながきをよしとせず まろうら
人物はながくをかしきはうへは古の懐ころ叙
からは丸角なら川の新製にはやかえなることに
のまさるは百善が食次冊よりうけがたし
ここに葛飾の北斎翁見るにまに写して
とりてまらさとるがいろく筆のはこびに
ことよりるかしらがくその日用ありて

いにしへのあふぐらゐの目におぼえし童にうつし
きわだ馬遠郭熙が山水のたゞずまひより
三景をうつして手はつゝのりが源氏絵
師の似絵は閉口せりかゝる今の世の人の
ちかごろとくとし古の人みさして飽かざるをなん
ごし

蜀山人

須弥

多門天王
廣目天王
四天王
増長天王
持國天王

吒枳尼天（だきにてん）
稲荷大明神（いなりだいみやうじん）

金山（かなやま）

神農

伏犠

丁令威
梅福
戴封
張果
武志子
孫康
李八百
王子章

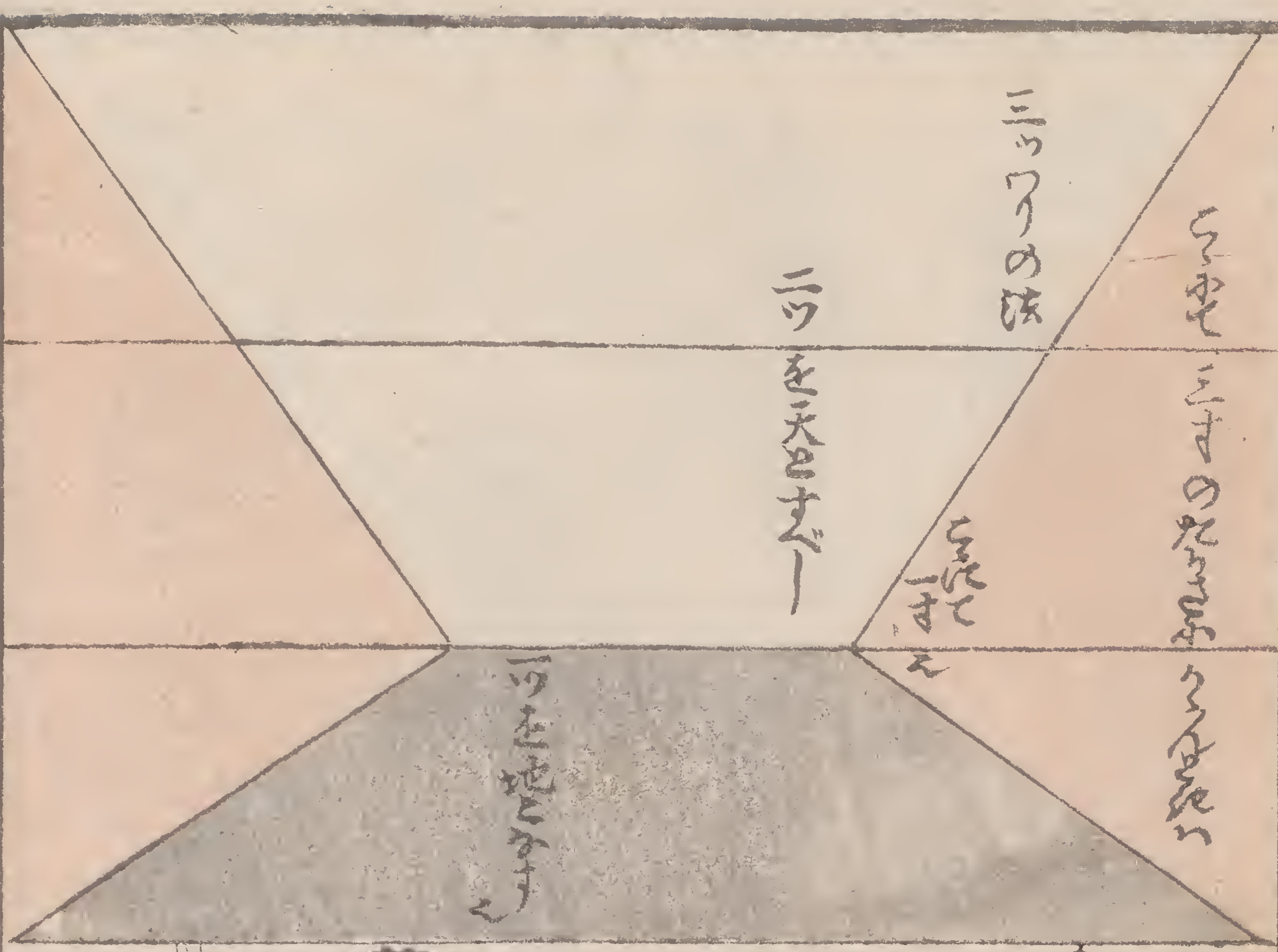
左慈
郝大通
偓佺
車胤
王喬
控鶴
東方朔
上利劍
林和靖

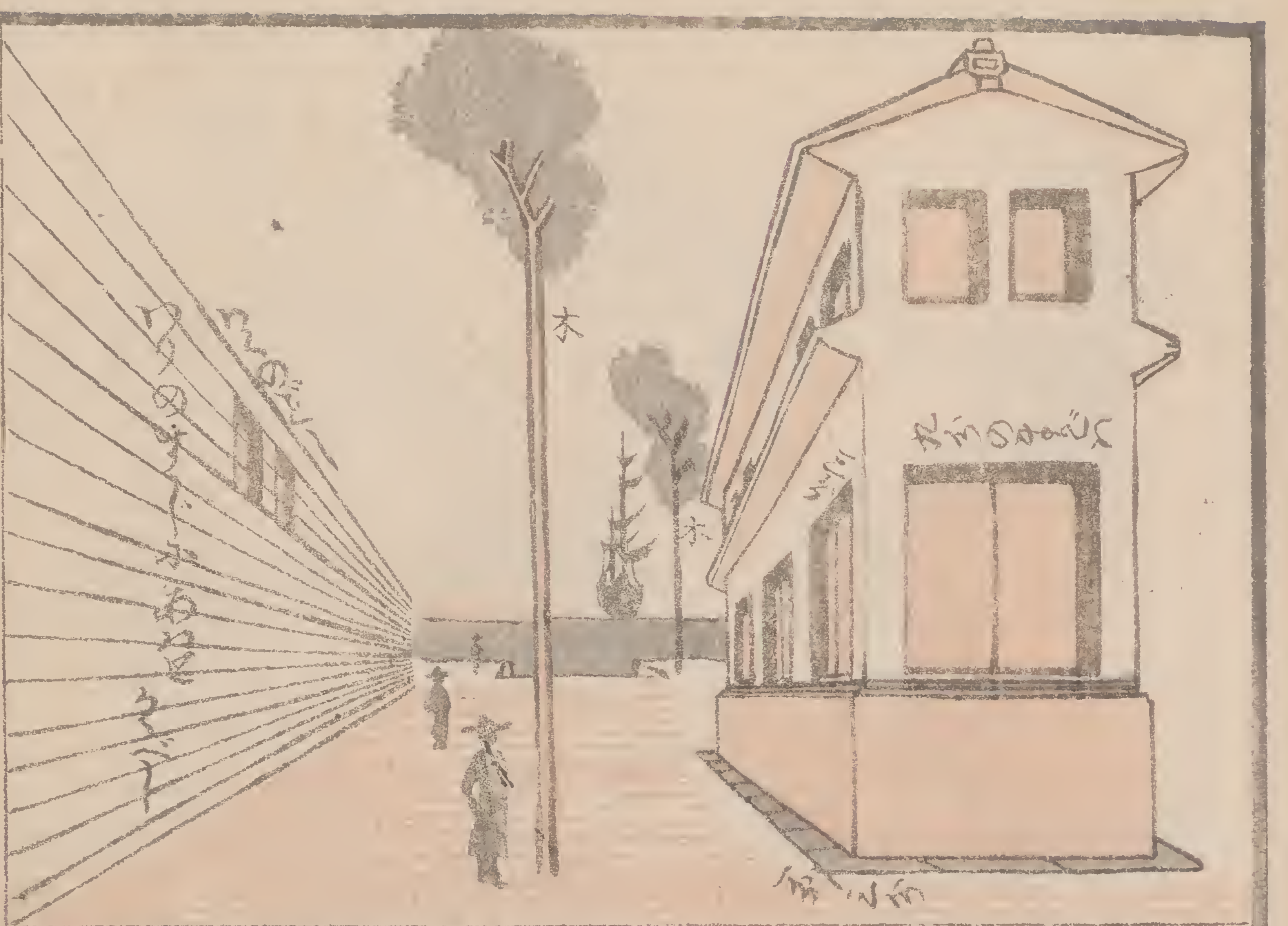
蝦蟇
麻姑
浮丘伯
白石生
黄初平
張三丰
馮長
馬成子
鐵拐
王處

王倪
陳南
張志和
傘風子
尹喜
孫登
蕭秦
盧敖

交脛
繳濮
後眼
羽民
無腸
長臂
三身
丁靈

穿胸
飛頭蛮
小人
狗国
三首
長耳聶
長脚
文身
柔利


三ツワリの法
二ツを天とすべし
一ツを地とすべし


木
木

奉納御宝前
奉納御宝前

雷（らい）

風（かぜ）

天狗
てんぐ

狒々
ひゝ

幽霊
ゆうれい

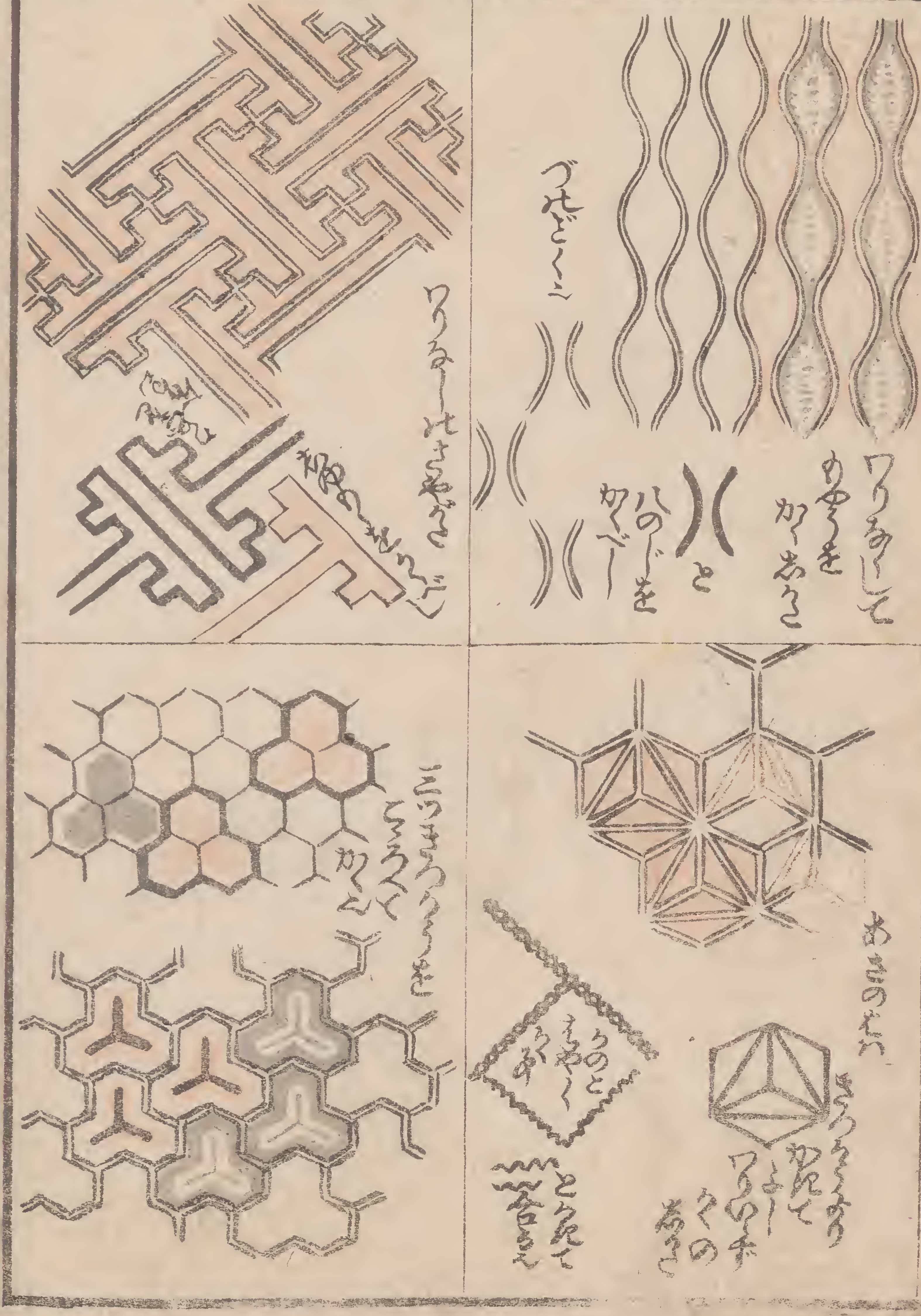
山姥
やまうば

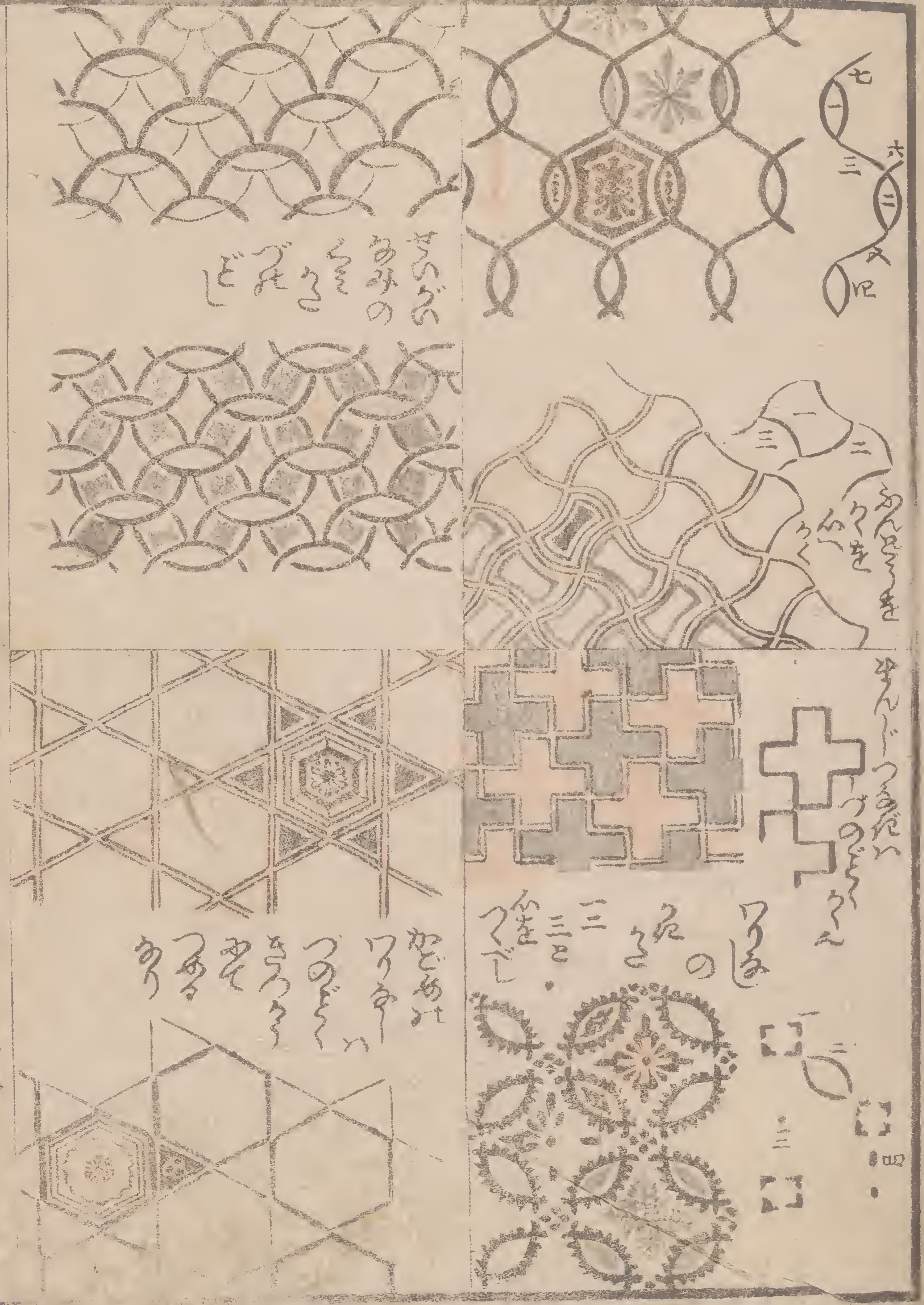
海市 かいし
蜃 しん

舩鬼 ふなゆうれい

海馬
水犀

人魚
海鼠
水獺
水豹
河童
鯪鯉




七
一
三
六
二
五
四

山鵲
錦雞
鳥鳳
鷚
鵤嘴
白鷴
鵲

風鳥
ベラ鷺
鵆
比翼鳥
鶪
駝鳥
烏骨鶏

鴞 やろう
翡翠 かはせみ
はしきり
鶤雞 とうまる
雷鳥 らいてう
鸊鷉 かいつむり
カラクン

角鷹 くまたか
鳶 とび
鶚 みさご
鷲 わし
鷂 はいたか
鵙 もず

蜀黍
山淺瓠
芍藥
真桑瓜
栗
芋
蓬蘽

藤豆
柘榴
淺瓜
大根
蕪
冬瓜
茄子

鍾馗（しやうき）

○前北齋戴斗先生画譜目錄

東都麹町平川二丁目
角丸屋甚助藏版

戴斗畫譜　全部十冊
先生七才より五十有四年画道独学の筋骨を出して画師の一助となし悉く其妙を述ぶ

北齋漫畫　初編二編三編
奥に平生ふじんのあつめてさまざまの画学を篇を続で全部に元と書き

同四編
草筆を加へ席上の臨本にもっぱらとなすを要とす

同五編
花表堂塔伽藍月卿雲客館宥房舎を委くうつしくはしくなし洩さざるは編てふれをとぢ

同六編
剣法槍法弓馬炮術は衛士のかたちを描して
はまびらかにし武徒の学ぶことを表せる一書とす

殿星閣

同七編　国々名勝の地風雨霜雪のけしきを写す

同八編　前編に洩たるを補ひ且紡績養蚕の業をしるす

同九編　和漢の武者并よび貞婦烈女のたぐひを載る

同十編　神仏並に貴僧高僧幻術并風流の人物をあらはす

三體畫譜　真行草の筆意をもちて人物山川艸木禽獣虫魚にいたるまでくはしく巻中にあらはせり

商人鑑　市中商家四時のいとなみを巡して太平の恩沢をあふぎ数篇をかさねて一物も残るところなし

東都畫工　北斎改　葛飾戴斗

同　校合門人　魚屋北溪

斗圓樓北泉

尾陽名古屋校合門人　月光亭墨僊

東南西北雲

文化十三年子夏

江戸日本橋四日市　竹川藤兵衛

同本石町十軒店　英屋平吉

名古屋本町七丁目　永樂屋東四郎

[illegible]平川丁目　角丸屋甚助

J Talmage White